

## イチイカタカイガラムシ

イチイの若枝や葉裏につく茶色の粒状のカイガラムシ。最大長約3mm。春から夏に目立つ。

庭や公園のイチイでしばしば多発する。煤病を併発し、美観を損なう。多発すると葉が黄変し、枝の伸びが悪くなる。樹勢の悪い木は被害で枯れることもある。春に細枝の下側にいる虫をこすり落として駆除する。



1. 雌成虫，体長3mm。2000/6/12.

北見市，庭のイチイ。

【学名】 *Parthenolecanium pomericum*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) ， カタカイガラムシ科 (Coccidae)

【分布】 北海道。ヨーロッパ。1990年頃，道東地方で突然発生。ヨーロッパから侵入したと考えられる。

### 【特徴】

成熟した雌成虫は半球形，つやのある焦げ茶色。体長3mm。幼虫は楕円形，クリーム色。青枝や葉裏につく。

### 【生態】

宿主：イチイ。多発すると付近の別の樹木に寄生することもある。

年1世代。幼虫で越冬。札幌辺りでは雌成虫が6～7月に出現，体の下に卵の塊を産む。卵は7月頃に孵化する。孵化幼虫だけが移動力があり，移動・分散の役割を果たしている。孵化幼虫は新梢に移動・定着し，吸汁加害する。

### 【文献】

1991. 鳥倉英徳. 話題：十勝地方の緑化樹の新害虫。防除所だより（十勝病虫害防除所・十勝農業試験場），74：150-151.

（最初の発生記録，生態，形態）

1996. 尾崎研一. イチイに新たな害虫イチイカタカイガラムシ。森林保護，256：41-43。（生態，他のイチイのカイガラムシも含む）

イチイカタカイガラムシ kaigara/itiikata/

kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/1/26.

musi.JPG

「写真1」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.